

第25回定期大会（東京大会） 植田宏和全日教連委員長挨拶

議案書掲載文

「美しい日本人の心の育成」を基本理念に持ち、教育専門職としての責任と誇りを持った全国の会員が東京に集い、第25回全日本教職員連盟定期大会が盛大に開催できますことは誠に喜びに堪えません。また、常日頃より本連盟を応援してくださっている多くの方々に感謝申し上げます。

昨今の教育界では、子供たちの学力低下、倫理観の欠如や規範意識の低下、教職員の質の低下等が問題視されています。このような中、教育基本法が改正され、教育関連3法案では、学校教育法においては、副校長、主幹教諭・指導教諭という新しい職務が設けられ、県によっては配置されたところもあります。全日教連が要望を続けてきた5級制が不完全ながらも導入となりました。そして、平成20年3月新学習指導要領が告示されました。

「伝統と文化の尊重」「国を愛する心の重要性」「父母、祖父母に敬愛の念を深める」「道徳教育の充実」等が盛り込まれ、あらためて、全日教連の基本理念である「美しい日本人の心の育成」が重要視されています。

しかし、現代社会において正義が悪に敗れることも少なくありません。そして、正義を知る人が悪の力におそれ、臆病になっている現実もあります。これでは、社会も学校も良い方向に進むわけがありません。元経団連会長の土光敏夫氏のお母さんで、橘学苑の創始者である土光登美さんは「正しきものは強くあれ」という言葉を残されました。この言葉のように、私たち全日教連会員も教育専門職として、自分に自信を持って様々な課題に正面から立ち向かうべく、強くあらねばならないと思います。

天然資源の乏しい我が国においては、人材こそ財産です。「教育は人創り」であり、優秀な人材を教育界に確保し、幸せな未来を獲得できる子供の育成を図るためには、国の責任において教育に予算を付けるべきだと考えます。

全日教連は本年度も、全ての活動が「子供たちのためになるかどうか」を価値基準として、文教予算の確保・給与勤務条件の改善等、教職員が安心して、その持てる力の全てを職務に集中し、専念することが可能となる教育環境の整備を目指す運動を展開します。そして、日本教育文化研究所発刊の機関誌「教育創造」の発刊や教育シンポジウム等の活動を通して、教育の諸問題の解決に向けて積極的に提言を行います。全日教連ならびに教文研の発展こそが、日本の教育をより良いものに変えていくものと確信しております。

本大会において、平成20年度の全日教連の活動方針が決定されますが、代議員ならびに参加各位におかれましては、日頃の教育実践と組織で培われた情熱と英知を持って、組織の更なる発展と充実に向けた活発な討議が展開されますよう期待します。最後になりましたが、本大会の開催にあたりご尽力いただいた多くの皆様方に心から感謝の意を表します。